

Ⅱ 主要遺構概説

第1節 平城京城の主要な調査

左京一条三坊・四坊⁽¹⁾ (図1-① 図2) 京都と奈良を結ぶ国道24号線のバイパス工事に伴う調査で、1969年から1970年にかけておこなった。平城宮に比較的近い立地で、十四・十五坪からは園池を伴う建物群が見つかったことから、有力貴族の邸宅と推定されている。奈良時代初頭から末期の3期の遺構変遷を確認し、I期のSD485からは、紀年木簡(713~717)や「和銅」と記す墨書土器とともに、多量の土器が出土し、「平城宮土器Ⅱ」の指標となっている。ここからは形象硯(8)が出土しており、時期のわかる資料として注目される。東三坊大路は平安時代以降も平安京に続く主要な幹線道路として残り、東側溝SD650からは告知札など京都との往来を示す遺物とともに、9世紀初めから10世紀初頭までの遺物が多く出土した。埋土は上下層に大別でき、出土した銭貨、木簡、土器などから下層のSD650Aは9世紀前半、上層のSD650Bは9世紀後半に堆積したとみられているが、出土した陶硯はSD650A・Bともに圜足円面硯を中心に風字硯、黒色土器B類の風字硯を含むなど、内容に大きな差異は認められない。周辺でおこなわれた奈良市教育委員会の調査(市第440次など)⁽²⁾によって、この一帯は平安時代に有力者が占地していたことが確認されている。

左京三条二坊一・二・七・八坪⁽³⁾ (図1-② 図3) 本格的な調査は1985年にはじまり、1987年に「長屋皇宮」と書かれた木簡が発見され、長屋王邸であることが明らかになった。7期にわたる遺構変遷を確認し、出土した遺物も膨大である。陶硯は138点数えるが、包含層からの出土が多く、遺構から出土したものは、長屋王邸時代(A~B期)のものはほとんど無く、長屋王自尽(729)後のC期以降のものが多い。とくに二条大路南側溝に沿って掘られた濠状土坑SD5100(C期)や、敷地を分割する坪境小路の側溝SD4229・4231・4361・4359・4589・4909(D期以降)からの出土が目立つ。陶硯の出土分布を、長屋王邸の時期(B期)の遺構配置と重ねると、正殿がある中央内部からの出土はなく、東内郭よりに分布が偏る。しかしながら、これら陶硯と長屋王邸との関連は、なお今後の検討

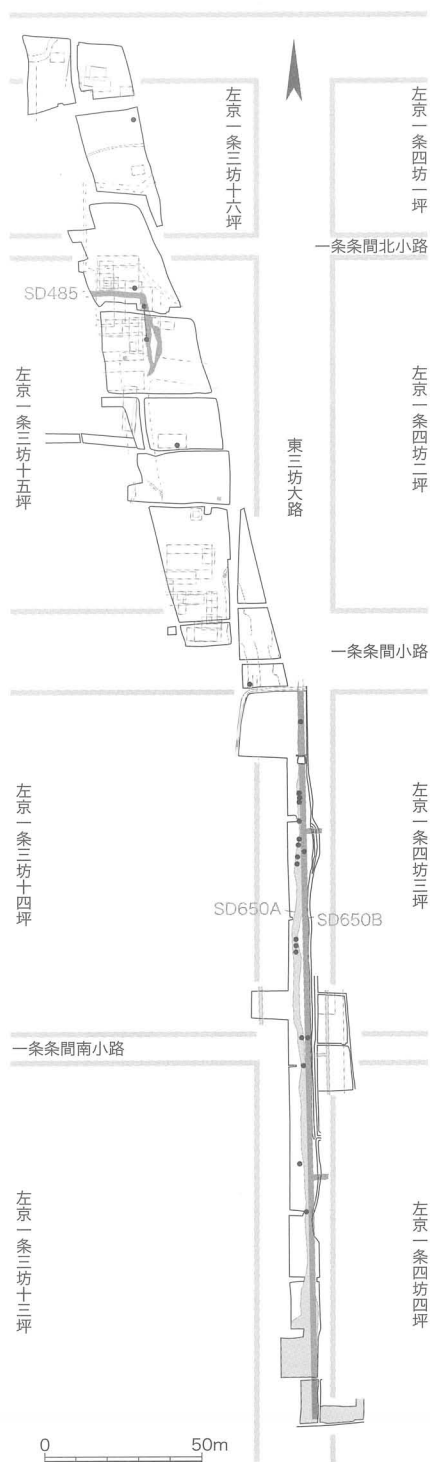


図2 左京一条三坊・四坊の調査と陶硯の分布

が必要である。また平城Ⅲの指標であるSD5100から出土した蹄脚円面硯B(258・278)は、その初現を考えたうえで注目される。

右京八条一坊十三・十四坪⁽⁴⁾(図1-③ 図3) 1984年から1986年にわたる調査で4期の遺構変遷を確認した。奈良時代前半の鑄造・漆工関連の工房跡が見つかり、十三坪内に工房の管理施設とみられる官衙風の建物群が展開することから官営工房の可能性が指摘されている。奈良時代後半には小規模宅地に細分されるが、陶硯の出土は、十三坪と十四坪を東西に貫く坪境小路の南北側溝SD1496・SD1499で、築地塀が切れる付近に集中する。この築地塀は後半にはなくなり、両側溝も幅を広げて付け替えられる(SD1500・SD1495)ことから、これらの陶硯は前半の官営工房に由来する可能性が高いとみられる。

左京七条一坊十五・十六坪⁽⁵⁾(図1-④)

1994年から1995年の調査で6期にわたる遺構変遷を確認し、奈良時代を通じて官人の宅地であったことが推定されている。奈良時代末には建物規模の拡大や施設が充実した様子が伺われ、周辺から出土した生産関係の遺物と合わせ、生産活動の場へと変化した可能性も指摘されている。この調査で出土した26点の陶硯の多くは東一坊大路西側溝SD6400から出土したものである。ここからは奈良時代から平安時代初頭の土器を含む遺物が多く出土しており、京域における陶硯の内容の一端を示すものである。

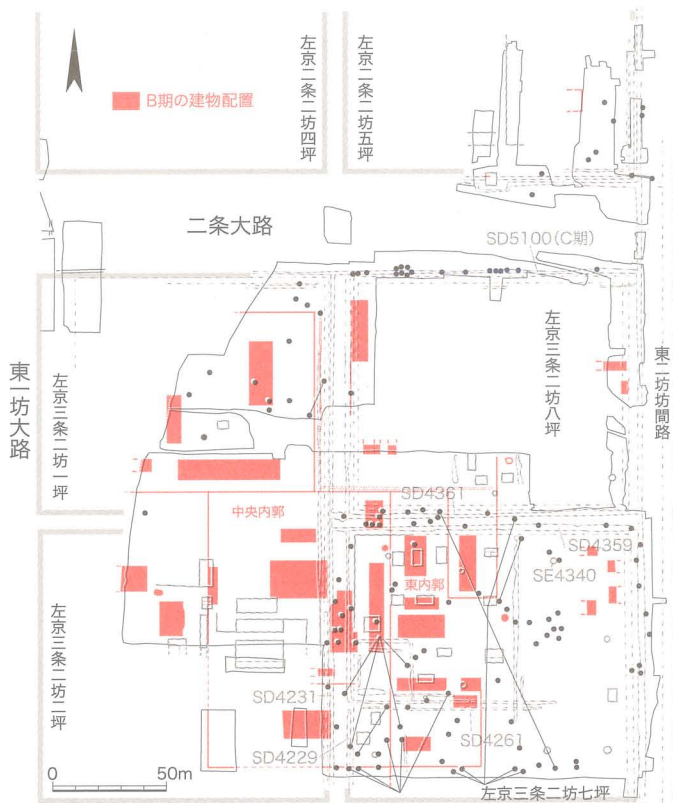


図3 左京二条二坊・三条二坊の調査(B・D期)と陶硯の分布

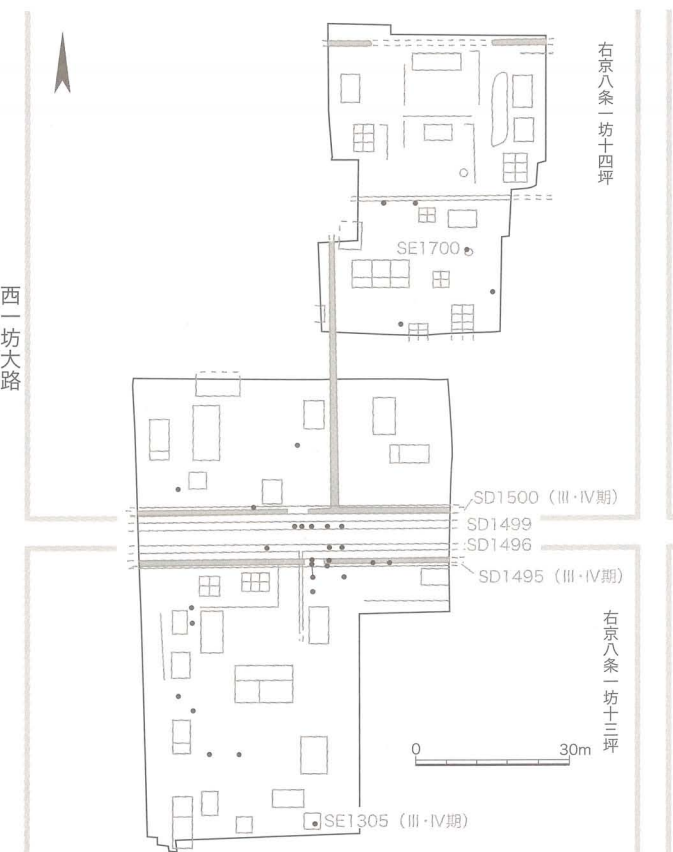


図4 右京八条一坊十三・十四坪の調査(Ⅱ期)と陶硯の分布

第2節 寺院の主要な調査位置

寺院については各寺院ごとの調査の概要を述べる。興福寺一乗院と薬師寺の調査区については、既往の報告では調査位置が指し示せないため、図4・5に掲げる。その他については、第IV章の一覧表に掲げた参考文献と『平城京条坊総合地図』⁽⁶⁾を参照されたい。

大安寺（6BDA） 大安寺の発掘調査で陶硯が出土したのは、1975年度に奈良県教育委員会と共同でおこなった個人住宅の新築と駐車場造成に際する調査（奈文研第95-18次・奈良県75-1次）である。調査区は大安寺の北面中房推定地にあたる。

法華寺（6BFK・6BFO） 法華寺旧境内は現在では個人住宅になっている地域が多く、その新築や改変に伴う小規模な調査が多い。7点の陶硯が出土した第98-17次は法華寺境内での収蔵庫建設に伴う調査で、SD03は法華寺の造営時の礎石建物雨落溝と考えられている。法華寺は平城宮東院地区を接するため、旧境内西寄り出土した陶硯の中には平城宮で使用されていたものを含む可能性がある。

元興寺（6BGN） 奈文研がおこなった元興寺域内の調査は、1995年から始まった名勝旧大乗院庭園の史跡整備に伴う調査である。奈良時代の遺構は部分的に検出されているが、元興寺に関連するものは見つかっていない。

法隆寺（6BHR） 1978年から1985年度にかけて行った防災施設工事に伴う発掘調査⁽⁹⁾が主体的である。遺構に伴って出土した陶硯はいずれも7世紀代のものも含まれる。本書では奈文研の発掘調査で出土した陶硯のみ掲載したが、保管品等については『法隆寺考古資料』⁽¹⁰⁾を参照されたい。

海龍王寺（6BKA） 法華寺同様、旧境内地の多くは個人住宅になっており、調査も小規模なものが中心である。硯が出土したSD1140は海龍王寺の北を画する条間小路の北側溝である。

興福寺（6BKF）（図5）寺院出土資料のなかで最も点数が多いのは、1963年の奈良県地方裁判所の建設に伴う発掘調査でみつかった興福寺一乗院の宸殿下層土坑の資料である。一乗院は天禄元年（970）

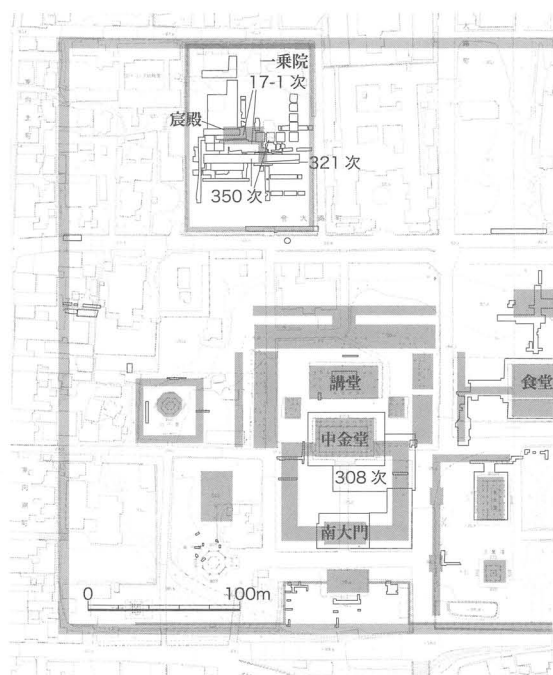


図5 興福寺の調査区

に創設された興福寺の子院である。この創建時の基壇土の下で検出した土坑から、多くの須恵器、土師器、瓦とともに奈良三彩や緑釉、灰釉、陶硯が出土し、一部は重要文化財に指定されている。共伴する土器は奈良時代末から平安時代初頭にかけてのものが主体的である。調査では一乗院創設前の壇上積基壇などを検出し、この地に堂舎が配されていたことを確認した。これらの陶硯は興福寺の何らかの機関で使用されていた可能性が高く、古代の寺院が所有する陶硯の様相を示すものであろう。出土した99点の大部分は小片であるが、同一個体は少なく、個体数の多さをうかがわせる。小型の圈足円面硯が多い点や圈足円面硯の硯部内面を朱用に転用するものがあるなど、奈良時代末の寺院の陶硯の使用実態を示す好例であろう。

西大寺（6BSD） 西大寺は1985年度から防災工事に伴って、伽藍中枢部を5カ年にわたって調査したが⁽¹²⁾、この時の調査で陶硯は出土していない。西大寺も旧境内の大部分が宅地化しているが、陶硯が出土したのも小規模調査である。

西隆寺（6BSR） 中世に廃絶し、現存しない西隆寺は近鉄線大和西大寺駅周辺の開発に伴って、比較的大規模な発掘調査がおこなわれ、南都の古代寺院のなかでも伽藍配置が発掘調査によって明らかになっている⁽¹³⁾。陶硯は金堂地区を中心に、旧境内一帯から出土している。

東大寺（6BTD） 奈文研による東大寺旧境内の発掘調査は小規模調査が中心で、陶硯が出土したのは東大寺学園構内の調査である⁽¹⁴⁾。黒色土器B類の風字硯で平安時代にくだるものである。

唐招提寺（6BTS） 戒壇院の調査で比較的まとまって出土しているが、出土した層は戒壇院が慶長元年（1596）の大地震で倒壊した後、元禄年間に復興した際の盛土、裏込土である。

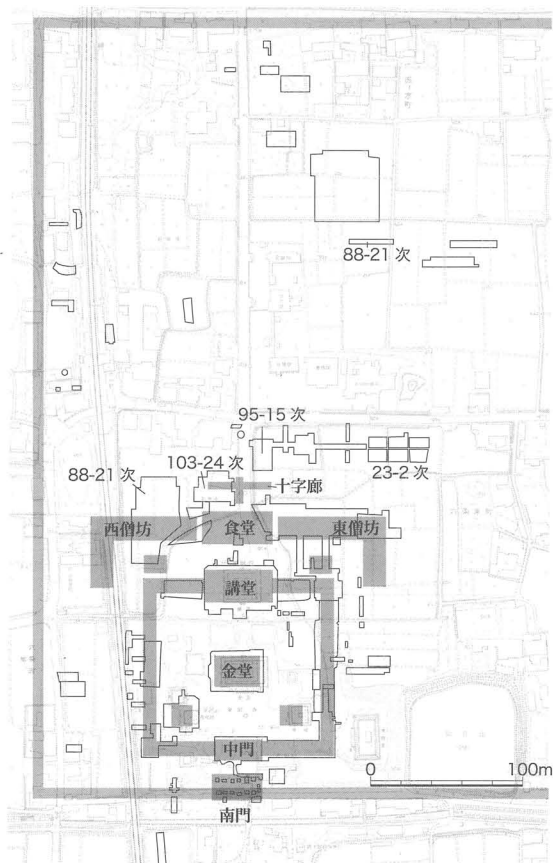


図6 薬師寺の調査区

薬師寺（6BYS）（図6）薬師寺の発掘調査は1934年からおこなわれているが、とくに1968年からの伽藍復興・整備に関わる調査は1985年まで続き、多大な成果をえた⁽¹⁶⁾。陶硯が出土したのは西僧坊（88-21次）、十字廊（103-24次）、東僧坊北方（23-2次）が中心である。

- (1) 奈文研1975『平城宮発掘調査報告Ⅵ－平城京左京一条三坊の調査』（学報23）
- (2) 奈良市教育委員会2001「平城京左京一条三坊十三坪の調査 第440次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』平成11年度
- (3) 奈文研1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告－長屋王邸・藤原麻呂邸の調査－』（学報54）
- (4) 奈文研1989『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』（学報46）
- (5) 奈文研1997『平城京左京七条一坊十五・十六坪発掘調査報告』（学報56）
- (6) 奈文研2003『平城京条坊総合地図』（史料60）
- (7) 奈文研1977『昭和51年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
奈良市教育委員会1997『史跡大安寺旧境内1－杉山古墳地区の発掘調査・整備事業報告』
- (8) 奈文研1977『昭和51年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
- (9) 奈文研・奈良県教育委員会編1985『法隆寺防災施設工事・発掘調査報告書』
- (10) 奈文研2002『法隆寺考古資料』（史料56）
- (11) 奈良県文化財保存事務所編1964『重要文化財旧一乗院宸殿・殿上及び玄関移築工事報告書』
- (12) 奈良県教育委員会・奈文研編1990『西大寺防災施設工事・発掘調査報告書』
- (13) 奈文研1976『西隆寺発掘調査報告書』
奈文研1993『西隆寺発掘調査報告書』（学報52）
- (14) 奈文研1980『昭和54年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
- (15) 奈文研1979『昭和53年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
- (16) 奈文研1987『薬師寺発掘調査報告』（学報45）